

教員氏名：佐藤 友樹（保育学科／講師）

1. 教育の責任（何をやっているか）

現在の教育活動

保育学科に所属し、主に幼稚園教諭免許や保育士資格の取得にかかわる授業や、2年間の総まとめとなる「保育教職実践演習」をオムニバスで担当している。また、学科における学生指導の基盤に位置付けられている「ゼミ」については、1年生、2年生とも担任を持っており、2年生の専門ゼミの授業では、身体を動かす遊びについて調べて実践し、実践した遊びの楽しさを子どもたちに伝えていく方法について追究している。

現在の担当科目

- ・子どもと健康
- ・保育内容「健康」の指導法
- ・子どもと身体表現
- ・身体表現の指導法
- ・キャリアデザインⅠ
- ・キャリアデザインⅡ
- ・保育・教職実践演習
- ・専門ゼミⅠ
- ・専門ゼミⅡ

2. 教育の理念（なぜやっているか）

専門分野と教育の関連

健康・スポーツ科学を専門とし、主に各運動の指導について研究してきた。運動の指導については、「誰に対してもこれが絶対に良い」や「この方法であれば誰もが出来る」というものではなく、個人の特性や状況等によって、効果的である方法や必要な練習などは異なってくると考えている。そして、これらのことは運動の指導だけに限らず、様々なものに通じることであると感じており、短期大学での保育者養成においても、個（一人ひとり）を重視した教育の展開というものを意識している。

学生の学習に対する理念

担当する授業では、保育や教育の現場での実践を想定し、身体を動かすものを中心に子

どもの心を元気にする遊びを紹介して実践している。学生には、一つでも多くの遊びを知ってもらい、保育や教育の幅を広げて（遊びの引き出しを増やして）もらえるように努めている。また、学生が学んだことを実践に活かすことができるように、現場で確認された事例（保育や教育の様子）を紹介し、それを用いて遊びの展開の仕方などについて検討できるようにしている。

社会における大学教育の位置づけ

保育者を養成することは、未来を築いていく子どもたち育てていくことにもつながってくると考えており、保育者の養成を担っている本学（育英短期大学）の社会に対する役割は、とても重要であると感じている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

教材の工夫

- ①担当する授業では、できる限りワークシートを作成し、それを用いて授業を展開している。ワークシートでは、毎回の授業の課題を提示し、学生が主体的に課題に取り組みながら、授業に参加できるように努めている。また、講義系の授業では、パワーポイントを使用することで、授業内容についてより理解を深められるようにしている。
- ②演習系の授業では、学生自身が実践するということを重視し、できる限り実践的内容で展開している。その際も、補助資料等を用意し、学生が学んだことを振り返れるようにしている。

双方向型授業の実践

教員が一方的に授業を展開するのではなく、取り扱うテーマに関して学生に問う、学生が意見発表する、学生同士で相談するなどの時間を設けて双方向型の授業の展開に努め、できる限り、学生が主体的に学べるようにしている。

学生への配慮

可能な限り難しい専門用語は使わずに、分かりやすい説明を心掛けている。難しい専門用語を使う場合には、まずその意味を説明する。また学生に知識として覚えてもらいたいことについては、できる限り興味を持ってもらえるようにクイズ形式にするなどの工夫を心掛けている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生の学習成果

育英短期大学では、2025 年 4 月より授業を担当しているため、担当授業における学生の学習成果について、十分に確認することができていないが、演習系の授業においては、「できなかった」ということが「できるようになった」という声が聞こえてきている。実際に、「できなかった」ということが「できるようになった」学生の様子も確認している。

学生による授業評価

育英短期大学では、2025 年 4 月より授業を担当しているため、担当授業における学生の授業評価について、十分に確認することができていないが、演習系の授業においては、「楽しい」などの前向きな評価の声が聞こえてきている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標

担当している授業において、学生の学習成果や授業評価を分析し、授業方法の改善を図って、より学生に興味関心を持ってもらえる学びのある授業の展開に努めていく。とくに学生評価における学生の意見を重視し、どのような授業内容や展開が求められているのかを分析し、効果的な学びを実現できるようにしていく。

中・長期的な目標

担当している授業と研究している分野の関連性は非常に深いと感じている。それゆえに、自身の研究成果を授業における学生の学びに還元していけるように努めていきたい。また、その視点での研究活動の展開を意識している。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

1 担当科目のシラバス

(2025 年 6 月 20 日現在)